



二学期が始まりました

校長 宮田 卓郎

8月1日（土）から始まった夏季休業も23日間で終わり、いよいよ2学期が始まりました。

新型コロナウイルス感染症対応の臨時休業に係る回復措置の影響もあり、例年比べて授業日が8日間長くなりました。また、例年であれば、九州大会、全国大会へつながっていく地区や県での中学校総合体育大会ですが、県一括開催や9地区分散開催で、九州大会、全国大会は中止というように例年とは実施日時や大会運営が大きく異なったものとなりました。更に、新型コロナウイルス感染症予防対策や熱中症予防対策を講じながらの大会でした。生徒の皆さんや保護者の皆様方も何かと気を遣う大会運営になりましたが、健康や安全の確保が第一ですので、大会を運営するスタッフの負担もかなり大きかったことは事実です。結果として、大きな怪我、病気、トラブルもなく大会が終了したことは喜ばしいことでした。そして、何よりも生徒の皆さんが、窮屈な練習日程ではありましたが、その中で培った成果を発揮できたことがよかったことだと感じました。

ここからは、1学期の終業式で話したことをもう一度振り返りながら、2学期に自分が置かれるであろう状況を客観視していきましょう。

3年生は、来週の火曜と水曜にさっそく第2回の地区の実力テストが実施されます。9月の終わりにはその結果が出ますので、10月には第2回の三者面談が実施されます。第1回目の実力テストで志望校の合格ラインに達していなかった人は、ぜひ、この第2回の実力テストでは合格ラインを超えるかそれに近づけてください。その後に行われる進路の最終判断をする第3回の実力テストに向けての学習に自分自身の気持ちにゆとりと自信が出てくるからです。また、第1回の実力テストで志望校の合格ラインに達していた人は、第2回目の実力テストでも合格ラインに達していれば、第3回目の実力テストに向けての学習に更に大きな自信と心のゆとりをもって取り組むことができます。

終業式でも話しましたように、このように来週の第2回実力テストの意味合いは、非常に大きなものであります。3ヶ月後の11月の終わりから12月の始めには、進学先の最終決定をしないといけません。そこまでに残された日数は本当に少なくなってきました。また、終業式では3年生にとって3学期はありませんということを話しました。3学期が始まるとすぐに私立高等学校の出願に始まり、県立高等学校の推薦入学者選抜の出願、私立入試、私立入試の合格発表、県立高等学校推薦入学者選抜検査、選抜検査の合格内定、それを受けての県立高等学校の一般入学者選抜の出願、一般入学者選抜検査と、10日前後で次々に続いていきます。県立高等学校の正式の合格発表の時には、3年生はすでに本校を卒業してしまっています。

1、2年生の皆さんも、3年生の先輩の後ろ姿を見ながら、明日は我が身であることをしっかりと意識し、県立高等学校の入学者選抜に今のうちから意識付けはしっかりとしておきましょう。県立高等学校の入学者選抜は、中学校3年間の学習や生活への取組が、高等学校に提出される調査書で評価されます。選抜検査の時だけであればよいという訳ではありません。そのためにも、1学期の自分自身の生活面、学習面、集団の一員としての在り方を含めて、改めてしっかりと振り返り、考察して、今日から始まった2学期に臨んでいきましょう。4月から話してきているように、関心・意欲・態度という観点での評価は、県立高校等の受検では、とても大きなウエイトで評価されます。毎時間の授業に取り組む態度が一番大切です。また、1、2年生は、9月下旬に生徒会役員の選挙があり、特に、2年生は中堅学年として、3年生に代わって西階中学校を支えていくことになります。生徒会活動では、3年生が「挨拶運動」や「3・2・1運動」、「学力向上コンテスト」、及び「災害等での募金活動」の素晴らしい自治活動を展開してくれています。ぜひ、それを引き継ぎ、更に発展させて新たな西階中学校の伝統を創っていきましょう。これからも「挨拶」、「時間」、「無言」が、更に練り上げられるように生徒会を中心とした全校生徒一人一人の皆さんの意識の更なる高揚に期待したいと思います。

最後に、夏季休業中は、生徒一人一人の皆さんが、特に、水の事故をはじめとする事件事故に遭わなかったことに対して心からホッとしています。2学期も、新型コロナウイルス感染症や熱中症の防止をはじめとする健康や安全の確保に十分留意して、有意義な学校生活を送っていきましょう。